

ふるさと奥尻通信

平成26年7月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

「6K」というと、最近では「会社」・「子育て」・「家事」・「介護」・「看護」・「子ども会」の頭文字なんだとか。ありふれた日々の暮らしのことだけど、社会の中で協力してうまくこなしたいもの。

特集 奥尻島を楽しむワンポイント ー夏の野外編ー

待ちに待った夏がやってきました。この時期は島内が最も活気づいて賑やかな頃で、8月中旬のお盆前後にその最盛期を迎えます。

旅人の目的はなんでしょうか。それは人様々でしょうが、やはり日常には無いもの、非日常を体験したいと思っているのではないのでしょうか。日々の暮らしは、時に単調であったり、家事や労働は辛く苦しいものであったりもします。これらはストレスとなつて心身に影響を及ぼします。そんな溜まったストレスを解消するのが、離島ならではの大自然とのんびりした風土なのです。

奥尻の自然は、なんと言っても海と山ですが、そこは魅力的な反面、人の手が入っていない原始的な場所も多く、手ほどきがないと、歩みにくい場面もあるでしょう。今回はちょっとしたワンポイントアドバイスです。

①港や海岸で海をのぞいてみる

港の岸壁や、なべつる岩周辺のテトラポットを見おろしてみてください。たくさん黒いツブツブが見えるでしょう。これらは大小のウニです。間近に見えるんですよ！



定番のBBQ



拾えるメノウとガラス石



無縁島海岸の砂利浜 釣りもできます



フットパスをガイドがご案内します

②砂浜や磯に降りてみる

天気がよければ海水浴がしたいはず。島内は、指定の海水浴場がないので、比較的穏やかな場所を「適地」として表示しています。東風泊海岸の砂浜（通称マチコビーチ）や、無縁島海岸の砂利浜がオススメです。当日の風向きによって選びましょう。砂浜では様々な貝殻が、砂利浜ではメノウやチャート、ガラス石などが拾えます。

③フットパスを歩く

島内を車で回るのも良いですが、歩いて回るスポットもあります。島内にはフットパスコースが4つ設置され、色々な景色を眺めながら、草木や花を楽しむことができます。車では見落としがちな、島の息吹を感じてみてください。奥尻の中心部を歩く「街歩きコース」が手ごろです。

④奇岩をみる

奥尻島では、太古の昔の火山活動による岩石が多くみられ、力強い自然の造形となって、今に残っています。見るからに奇抜な「なべつる岩」、小山のような「ホヤ石」、アイヌのチャシ跡で弁天宮が遷座した「弁天岬」など、安山岩系の奇岩が多く見られます。他に、長浜に伸びる、「ゴマ石」と呼ばれる花崗岩の海岸もキレイです。

⑤BBQをする

夏はやはりBBQです。観光協会で機材をレンタルすれば、あとは食材の確保。野菜、肉などは島の商店で、魚介類はお土産物屋や飲食店で問い合わせると良いアドバイスをしてくれるでしょう。最後は、海岸のゴミ拾いと、飲酒運転禁止をお忘れなく。



お気に入りの隠れスポット さてどこだ？



お坊さんが頭を垂れているように見える？

〈連載〉奥尻の校歌 第5回 青苗小学校 明治22年～



潮風輝き おどる波
おおい海 ほとりあつて
しつかり腕をとりあつて
友よ郷土を豊かに
富ませましよう

青苗岬灯台が
お夢を呼ぶ
正しく生きる道しるべ
友よ光を仰いで

そびえて高い徳洋碑
お胸が鳴るあとを受けて
歴史文化をあらたに
進めましよう



高松宮殿下来島で歓迎 昭和37年8月



平成5年まで使った旧校舎 昭和48年

工藤 誠作詩、本田安男作曲、昭和34年(1959)制定の校歌は3番構成からなります。工藤は道内各地の校歌を作詩した人物です。歌詞では青苗のランドマークたる、青苗岬灯台と徳洋記念碑が歌われ、歴史に学び正道を歩むようにとの願いが込められています。

月刊 奥尻のつり 7月号

夏の到来とともに、磯魚はどこかへ消えてしまいました。エサ釣り用の竿とリールはしばらくお休みですので、キレイに拭いて、メンテナンスをします。竿先にひび割れがないか、ガイドは緩んでいないか、竿尻は傷んでいないか、リールの回転は悪くないか、などなど。これらを怠ると、秋のシーズン一発目で、せっかく大物が掛かっても、竿がポキリと折れたり、リールの回転が悪く、魚の取り込みに失敗するのです。水温の高そうな港をうかがうと、小魚が群れています。そこで、オキアミをちょっと投げ込むと、小さいフグが群がってきました。サビキで遊んでみると、昨年も大量に発生したクサフグの幼魚でした。9月には大きくなって、アジやサバ釣りの邪魔をしたり、エサのイソメやイカゴロを食い荒らしてしまうのです。困り者の登場です。

昭和奥尻生活詩 19回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

又その土行其し島何女向武り凍り學校 ス臭れつす行のてに家のふ士ヤれヤ校 ビ人い違つて居での人か川カたカの トの匂つまるしまるも人來ら籠橋がに ハ背ひたまる。行だる。をのん、 ギ中が時つた。つら。か所が、 くにした。た。たう。かつでんは、 ついで。な風を。だんね上 いて。あ 六	女の 人 の 歸 り 、 つ け て 行 つ た。 佐 藤 義 美
---	--

までコた観ムま競水めたで
し焼。客のし技上に。室七
たいナ特を熱たは競、今津月
。てしに楽戦。陸技海年祭十
おは貝しがそ上が上はり三
い人のまくれで中渡波が、
し気つせりでの止御が開十
くでかて広も開さと高催四
い、みいげ、催れ港かさ日
だそ取まら各と、内つれ
だのりしれちな各でたま
け場、しり種のだし日

室津祭り無事終わる



贈られた南国の貝殻

たすら島物のれンろ昨イしゴ県
。れ内ば奥もトで年トたが伊先
あるのか尻南にし度マ。た平日、
りこ幼りに国目た来ラ伊く屋、
がと稚では特がが交ソ平さん、
とに園し生有輝、流ン屋さんから
うなと息のき思し開と送ら貝
ごっ小。しもまわて催はら員
ざて学こなのしぬきがムれと
いい校れいでたづた縁でんサ
まにら生、。しとでんきサ
し 贈はき北どぜこ、ラま

伊平屋島の貝殻奇贈

島に来て、大自然のなかで遊ぶと、大人も童心にかえってしまうようです。今月は、友人の同窓生がたくさん遊びに来てくれたので、島の仲間達で島内案内とおもてなしをしました。3日間外で遊び、すっかり日焼けしてしまいました。室津祭りでは焼きツブを1年分食べましたので、もう大丈夫です。「アブラ」取りが面倒で、そのまま食べたのがいけなかったか…。

新来之記録 (編集後記)

ちと絶大ろの迎しも島り十て
たいや変、催えてのに、年き今
霧うさそ男すま平で出多のま
困、ずう手慰し穩し入く節しも
気がどにでが靈たのたり目の
がこ継し少会。中がし、マと
あか続たな場とで、スイ昨十二
り温しがくをあ慰今慌メう年二
まかて、訪る靈年たデこは日
しさい今準ね遺のはだイと震
たにこ後備と族日一しアも災
満うももこ会を転いがあ二

二十一年目の夏



青苗小学校鼓笛隊 昭和50年頃